

CASBEE京都-新築(2011年版)

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年

京都大学(南部)総合先端基盤研究棟(iPS細胞研究所第2研究棟)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.9	
Q1 室内環境									3.0	
1 音環境						2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 騒音						2.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル						2.0	1.00	1.0	-	
2 設備騒音対策						-	-	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	1.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.33	1.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.13	1.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.13	1.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	1.0	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.60	1.0	-	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
3 外皮性能						3.0	0.40	1.0	-	
4 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	1.0	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30	-	-	
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	昼光率計算にて4.045%	5.0	0.60	1.0	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
2 昼光制御				●自然 B(推奨内容)		3.0	1.00	1.0	-	
3 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	1.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	1.0	-	
4 空気質環境						3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					床・シート(規制対象外),壁・塗装(F☆☆☆☆),天井・化	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)		3.0	0.33	1.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	1.0	-	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					全館禁煙	1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						2.6	0.40	-	-	2.6
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.13	3.0	-	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)		3.0	0.87	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.8	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				●とも C(独自加点)		3.0	0.44	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						1.0	0.11	-	-	
3 内装計画				●自然 D(独自基準)		1.0	0.44	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.4	0.31	-	-	3.4
2.1 耐震・免震						3.8	0.48	-	-	
1 耐震性					建築基準法に定められた25%増の耐震性を有	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					給水:PLP、生活排水:VP、実験排水:VPを採用	3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			3.3	0.19	-	-			
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-			
	3	電気設備			5.0	0.20	-	-			
	4	機械・配管支持方法			1.7	0.20	-	-			
	5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性											
3.1 空間のゆとり											
1 階高のゆとり											
2 空間の形状・自由さ					●大切	A(全国版準用)	1,2階3.9m、3階3.85m	4.0	0.31	1.0	
3.2 荷重のゆとり							コア廻りを除くすべての壁を軽鉄壁	4.0	0.40	1.0	
3.3 設備の更新性							文科省『実験室』仕様で計画(3900N/m2)	4.0	0.31	2.0	
1 空調配管の更新性					●大切	A(全国版準用)		3.4	0.38	-	
2 給排水管の更新性					●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	
3 電気配線の更新性					●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	
4 通信配線の更新性					●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	
5 設備機器の更新性					●大切	A(全国版準用)	屋上及び消火ポンプ室にルート等を確保	3.0	0.11	-	
6 バックアップスペース					●大切	A(全国版準用)		5.0	0.22	-	
								3.0	0.22	-	
Q3 室外環境(敷地内)								-	0.33	-	2.6
1 生物環境の保全と創出					●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮					○	C(独自加算) D(独自基準)	景観地区、許可を得ている	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5	0.30	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	-	-	3.8
LR1 エネルギー								-	0.40	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制							屋根、外壁:内断熱、窓ガラス:複層ガラス 採用	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用								4.0	0.23	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用					●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用					●自然	A(全国版準用)	太陽光パネル(計画)	5.0	0.50	-	
3 設備システムの高効率化								5.0	0.34	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)							ERR=41.5%	5.0		-	
集合住宅の評価								4.0		-	
4 効率的運用								3.0	0.23	-	3.0
4.1 モニタリング								3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制								3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル								-	0.30	-	3.7
1 水資源保護								3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水							節水型便器等を採用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減								4.2	0.63	-	4.2
2.1 材料使用量の削減					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用								3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用					●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材、ビニル床タイル、タイルカーペット	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					●大切	A(全国版準用)	躯体+軽鉄壁+仕上、パーティション	5.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								2.5	0.22	-	2.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避								2.3	0.68	-	
1 消火剤								2.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)								2.0	0.33	-	
3 冷媒								3.0	0.33	-	
LR3 敷地外環境								-	0.30	-	3.1
1 地球温暖化への配慮								4.0	0.33	-	4.0
2 地域環境への配慮								2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止							グリーン購入法調達基準適合商品を採用	4.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.2	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減								3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制								3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制								2.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制								1.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	
1 騒音								3.0	0.50	-	
2 振動								3.0	0.50	-	
3 悪臭								-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	
1 風害の抑制								3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制								3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる